

避難生活支援コーディネーター(仮称)の 育成プログラムについて

避難生活支援コーディネーターの育成OJT派遣の実績

○「避難生活支援・防災人材エコシステム」構築に向けた避難生活支援コーディネーター育成OJTカリキュラムの試行プログラムとして、令和6年能登半島地震における避難所等において、R5年度・LS研修講師養成研修受講者を対象に、LS研修講師に同行し、避難生活支援を行うこととした。また、令和6年7月25日豪雨・山形県戸沢村においてアセスメント調査を実施した

	七尾市	穴水町	輪島市	山形県 戸沢村
受入団体	被災地NGO協働センター 担当者：頼政氏	レスキューストックヤード (RSY) 担当者：栗田氏・浦野氏	ピースボート災害支援 センター (PBV) 担当者：辛嶋氏	—
期間	2月下旬～4月上旬	2月上旬～3月中旬	7月中旬～8月下旬	9月3日／4日
関わり方	団体の拠点で受入団体スタッフとともに、もしくは単独で物資を受け取りに来た被災者へのニーズの聞き取りを行った。 また、専門職（看護）と被災者宅に伺い、ニーズの把握を行った。	自らの経験とスキルを活かして、一つの避難所で環境改善に必要な取組を提案・実施を応援職員、町職員と連携し実施。RSYスタッフと調整しつつも、単独で判断することもあった。	避難生活支援コーディネーター（仮称）OJTとして、PBVのボランティアスタッフの立場で活動。各現場にいるPBVスタッフと一緒に支援活動を行った。	避難所のアセスメント実施。行政や支援団体等への報告および今後の対応に関する協議
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 物資の荷受け、配布物資の補充、炊き出し支援 物資拠点に来た被災者へのニーズ、困りごとを聞き取りし受入団体（協働センター）に共有 戸別訪問：ボランティア支援の内容やその相談伺い 看護師派遣職員と一緒に避難所の物資に関するニーズの聞き取りを行う 避難所の統合に向けて市の担当課と打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の環境改善を検討するため一つの避難所を訪問し状況確認。対口支援の自治体職員と運営について相談 避難所にて情報掲示板の作成および敷布団等の利用状況の確認、部屋割りの調整に伴う掃除や物資の整理 避難所運営のタイムスケジュールや役割分担を決める際のファシリテーターを担う 在宅避難者への昼食をお届けし、被災者の困りごとを伺う 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所で、避難者と話し合いながら一緒にトイレ清掃やフロアの掃除を行う 避難所の退所時のルール作りを行い、ポスターを作成 台風の接近に伴う避難所周辺の台風対策（物の固定等） 自主避難者宅を訪問し、物資の配布や状況の聞き取り 一時的な断水における、凝固剤の利用を促すチラシの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所アセスメントシートに基づいた避難所の実態調査 避難者や関係者の聞き取り 調査と聞き取りに基づいた課題整理と今後の対応の方向性まとめ 行政や支援団体への報告および今後の対応に関する協議

能登半島地震におけるOJT派遣

※活動当時のご所属

派遣対象者	場所	期間（予定含む）
小山内世喜子氏（男女共同参画地域みらいねっと代表理事）	穴水町	2月1日～2月6日
	七尾市	3月15日～3月19日（総合体育館）
	輪島市	7月26日～7月31日
北村育美氏（さすけなぶる研究会／東日本大震災支援全国ネットワーク）	七尾市	2月9日～2月13日 3月20日～3月24日（総合体育館）
	七尾市	2月21日～2月27日 3月30日～4月5日（総合体育館）
佐藤純氏（特定非営利活動法人 Hand Over Japan 代表理事）	輪島市	7月11日～7月16日
	七尾市	2月21日～2月27日
小柳由佳氏（日本赤十字社長野県支部 事業推進課長）	七尾市	2月21日～2月27日
水野直樹氏（特定非営利活動法人 ソナエトコ理事長）	穴水町	2月24日～3月1日
	輪島市	8月22日～8月26日
甘中繁雄氏（NPO法人首都圏防災士連絡会 理事）	穴水町	3月5日～3月11日
細谷真紀子氏（山形県自主防災アドバイザー、図上訓練指導員）	穴水町	3月9日～3月13日
	輪島市	7月19日～7月24日
高智穂さくら氏（特定非営利活動法人 ソナエトコ）	七尾市	3月11日～3月16日
	輪島市	8月3日～8月8日



写真①：避難所での避難者に炊き出しの状況を伺っている（小山内氏）／写真②：役割分担を決めるMTGで進行を行う（小山内氏）
 写真②：在宅避難者へのニーズ聞き取り後の報告（小柳氏・佐藤氏）／写真③：福島大学の学生ボランティアと物資提供スペースの整理を行う（高智穂氏）

能登半島地震におけるOJT派遣を踏まえたコーディネーターの役割

OJTカリキュラムを実施して、避難生活支援コーディネーターとして求められると感じた役割

【OJT実施者の意見まとめ】

避難生活支援コーディネーターとして、避難所運営において多岐にわたる役割を果たすことが求められた。特に避難所等での被災者やボランティアとのコミュニケーションを円滑にすることが重要であった。また、地域住民と支援団体、行政との調整役としての役割があり、避難所の環境改善や被災者支援に対して中立かつ柔軟に対応する力が求められた。

○個別のご意見

地域住民の支えとなる

避難所運営に携わる地域住民の支えになること
若い住民は日中避難所を出ることが多く、避難所の運営・仕事・家の片付けと多重タスクを抱える。そういった地域で重要な方の支えとなり、避難所に関わる役割

多様な主体との連携

地元ボランティア、他県の応援職員、DWAT、DRAT、大学などの多様な主体がそれぞれ活動しているが、これらの主体間での情報共有が十分でないため、コミュニケーションを積極的に図り、避難所の環境改善と自主運営につなげた

環境改善と関係構築

良好な避難所生活のための環境改善
被災者一人ひとりに寄り添い、声をすくい上げる
避難所運営に向けたスキルの提供

若年層や未経験ボランティアのサポート

若年層のボランティアや経験の少ないボランティアが見逃していることを広い角度から観察・把握し、避難所運営会議で共有する役割

調整役としての役割

市の職員と住民や支援団体との調整役
支援団体のサポート、住民と支援団体の橋渡し
中立な立場で行政側、ボランティア、被災者に対して臨機応変に対応する役割

その他

情報収集力、コミュニケーション力、調整能力、臨機応変さをもって活動すること
運営に携わる方々と関わり、避難所を一緒に作り上げ、生活再建に向けて進む意識づけ
生活環境の改善やアドバイスだけではなく、状況に応じたイベントの提案やアドバイス

避難生活支援コーディネーターの人物像（案）

【平時】

- 日常的に、防災・被災地支援のみならず、男女共同参画、福祉など専門的なスキルを活かした活動に携わっている人物を想定
- 防災・被災者支援の隣接分野の職業に従事している
- 行政や自主防災組織、NPOや専門職等とのネットワークがあり、それらの担い手と連携・協働の実践経験を有している
- 被災地支援活動の経験を活かして、さらなる研鑽（知識・スキルの習得、ネットワーク強化など）の意欲がある人物が望ましい
- 全国域で、被災者支援に関連する関係者等とのネットワークを有していることが望ましい

【災害時】

- 避難生活支援コーディネーターとして、自らの経験やスキルを活かして、避難生活の環境向上のための環境改善、運営に関わる担い手と協働して取組むことができる人物を想定
- 災害発生後、1週間程度の単位で、継続した避難生活支援の活動が可能であること
- 自らの経験やスキル、強みを活かした被災者支援、避難生活支援の活動実績を有している
- 過去の災害において、被災者との直接的なやりとり、生の声を聞き、支援活動を行った経験を有していることが望ましい
- 自らの経験やスキルにこだわらず、現場の状況にあわせて、被災者支援に関わる多様な担い手との連携・協働を生み出すために、円滑なコミュニケーションを図る素養を有している

避難生活支援コーディネーターの人物像に関するコメント

※令和6年7月23日カリキュラム検討チーム会議で出た主な意見を整理

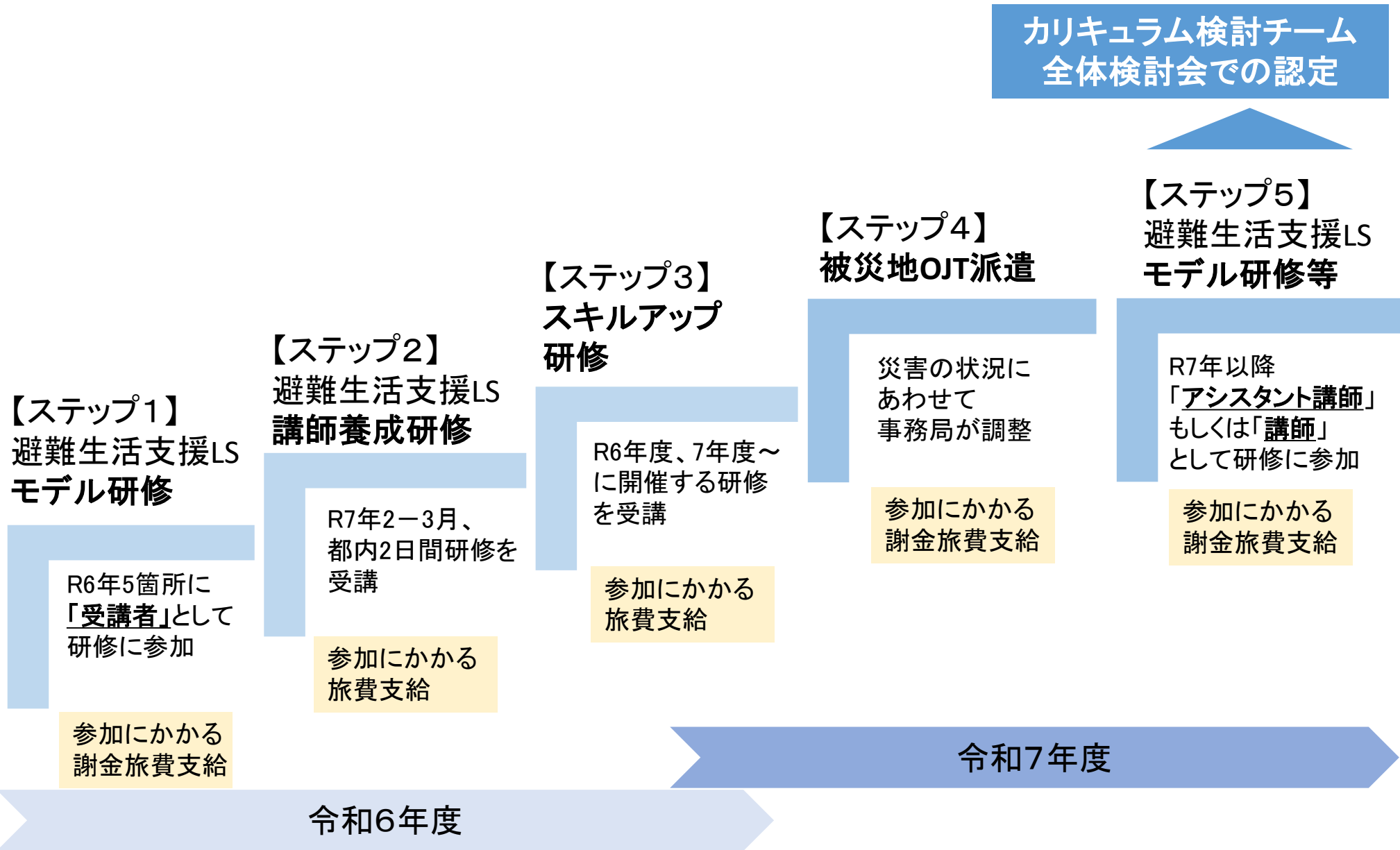
【コーディネーターの人物像】

- コーディネーター人材は、一つの避難所の開設から閉所までの運営、環境改善に携わるレベルから、避難生活支援に関わる自治体や専門職能チーム等と調整をしながら、複数の避難所の巡回支援、被災地域全体の避難生活支援に関わるレベルまで幅が広いといえる。
- まずは、一定の研修等を受講し、できるだけ経験とスキルを持てることを目指してはどうか
- 経験を重ねて、避難生活支援に関わる自治体や専門職能チーム等と調整をしながら、複数の避難所の巡回支援、被災地域全体の避難生活支援に関わることを目指してはどうか。
- コーディネーター人材の裾野を広げるために、避難生活支援リーダー・サポーターからのスパイラルアップを希望される方、カリキュラム検討チーム・全体検討会委員から推薦された方をコーディネーター候補の対象としてはどうか。

【育成カリキュラムについて】

- コーディネーター候補となった人材は、まず、避難生活支援リーダー・サポーター研修の「講師アシスタント」ができるように、「講師養成研修(R6年9-10月都内2日間プログラム)」を受講するのがよい
- その後、R6年度内5箇所で開催する「避難生活支援リーダー・サポーターモデル研修」において「研修アシスタント」として、講師と役割分担して、研修全体の運営を支援し、講義や演習の進行や解説などの一部を担う
- コーディネーターの役割を果たせるように、令和6年以降に避難生活支援コーディネーター育成の「スキルアップ研修」を受講していただく
- 令和7年度以降、「被災地でのOJT」や各地での避難生活支援リーダー・サポーター研修において「講師アシスタント」、さらには「講師」として経験を重ねるのがよいであろう

避難生活支援コーディネーター認定までのプロセス（イメージ）



コーディネーター(仮称)の役割から考えられる育成プログラムのイメージ

求められる役割

①避難生活に関わる多様な主体との連携

(連携先)

- ・ 被災自治体
- ・ 専門職能チーム
- ・ 総括支援チームGADM(災害マネジメント総括支援員)

(連携内容)

- ・ 避難所運営会議への参加
- ・ ～～

など

②地域の避難生活支援全般への関与

・リーダー/サポーターは、原則特定の避難所にける支援を行うのに対して、コーディネーターは在宅避難者への支援や複数の避難所の巡回などにも関わる

③平時からの人材育成

・避難生活支援リーダー/サポーター研修の講師や避難生活支援に関する研修・訓練等への参加を通じて、地域の人材育成を行う。

考えられる育成プログラムの内容

➤ スキルアップ研修

- コーディネーター市町村の受援体制への理解
→GADM、対口支援などの支援のしくみの理解と、避難所運営に関わる対口支援自治体職員の役割への理解や、連携時のポイントなど。
- 各専門職能チームへの理解
→避難所運営支援に関わる専門職能チーム、NPOをはじめとした多様な運営の担い手の特徴、役割、連携時のポイントなど
- 市町村避難所担当者との連携・調整
→職員の置かれている状況を理解し、信頼性を高めるための提案・調整(避難所運営会議などの実施、環境改善のための具体的な提案など)
- 地域の避難生活支援
→避難所の環境整備や在宅避難者の生活状況に関するアセスメント方法などの理解

➤ 講師養成研修(R5～)



敬称略、順不同、肩書は令和6年3月時点

【講師】R4年度からLS研修の講師を担った人材

1. 浦野 愛(特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事)
2. 辛嶋 友香里(一般社団法人ピースボート災害支援センター 現地コーディネーター)
3. 頼政 良太(被災地NGO 協働センター代表/ 関西学院大学人間福祉学部助教)
4. 山中 弓子(親子支援・災害看護支援てとめっと／看護師)
5. 山根一毅(大阪YMCA部長・ユース事業部責任者・グローバル事業グループ長)

【アシスタント講師】R5年度講師養成研修受講および被災地OJTを経験した人材

1. 土居 正明(元・日本赤十字社岡山県支部 組織振興課長／日本赤十字社事業局 救護・福祉部 参事) ※日赤心のケアチームとして被災地支援に従事
2. 小柳 由佳(日本赤十字社長野県支部 事業推進課長)
3. 甘中 繁雄(NPO法人首都圏防災士連絡会 理事)
4. 小山内世喜子(男女共同参画地域みらいねっと代表理事)
5. 細谷 真紀子(山形県自主防災アドバイザー、図上訓練指導員)
6. 水野 直樹(特定非営利活動法人 ソナエトコ理事長)
7. 高智穂さくら(特定非営利活動法人 ソナエトコ)
8. 佐藤 純(特定非営利活動法人 Hand Over Japan 代表理事)
9. 北村 育美(さすけなぶる研究会)

【その他】尾島俊之(浜松医科大学教授)、佐々木裕子(愛知県立大学看護学部准教授)は、アドバイザーとしてLS研修において専門的な知見から、演習等の解説など対応いただく